

* すばる観測機器開発用むらのない光源装置収集

大型光学赤外線望遠鏡(すばる)の観測装置開発用に製作された積分球を2段に使い、フィルターターレットが2段になった光源装置(写真1)が廃棄されるかもしれなかったもので、ATCから救済、収集しました。これを製作された方からの情報収集はしてありませんが、中桐の推測では CCD などの感度むらなどを補正するための「むらのない」一様光源装置だと思います。以前、すばるのために設置された天文機器開発実験センターの光学シミュレーターの光源部だったと推測しています。写真の青いものが積分球、箱部分に2段のフィルターターレットが組込まれています。

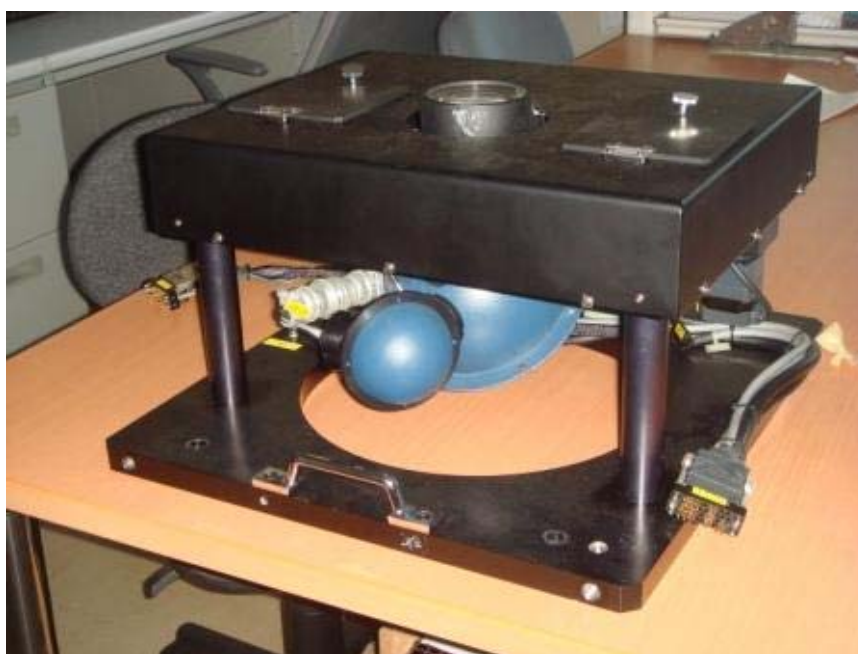


写真 1

時の流れは速いもので、中桐が「すばる」から離れて6年以上になります。大型光学赤外線望遠鏡「すばる」は世界最高性能の光学赤外線望遠鏡として数々の成果をあげており、宇宙最遠の天体ベスト10の内、9個はすばるが発見したものです。すばるの観測装置開発用に国内におかれた開発実験センターはすでに大幅にその姿を変えています。赤外線光源として作られた赤外シミュレーター-1.5m望遠鏡は広島大学に移管され、すばるのカセグレン観測装置の自動交換システムの開発に活躍した光学シミュレーターは廃棄されました。今、開発実験センターはALMAに主眼を置いた先端技術センターと変貌しています。その時代の研究者は最先端技術の開発に熱心で、それは当然のことで、その力が天文学を発展させてきました。もはや、そのすばる関連の機器をアーカイブすることになったとは感慨深いものがあります。こういった機器はとりあえずアーカイブ室で保管しておき、使用したい研究者に提供するようにしたいと考えています。